

炭酸ランタン水和物（ホスレノール）顆粒の有用性

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香、久保純子、丸山祐子、中島さゆり、小嶺真邪、矢野未来、
江藤りか、宮崎健一、李 嘉明、原田孝司、船越 哲

【背景】

炭酸ランタン水和物は、カルシウム非含有リン吸着剤として、2009年に発売された。既に発売となっていたセベラマー塩酸塩に比べて内服錠数も少なく、腹満・便秘の副作用が軽度であることも期待されていた。しかし、当初の炭酸ランタンの剤型がチュアブル錠であり、噛み砕いて服用する必要があったため、噛み砕きの個人差による効果の差異やアドヒアランスの面からも、効果の判定が難しかった。今回、本年6月より細粒が発売となった。

【目的】

炭酸ランタンの剤型変化に伴う服用法や患者の受け入れ、血清データの変化について検討する。

【対象・方法】

当院外来維持透析患者で、炭酸ランタンチュアブル錠を内服中の患者110名を対象とし、まずチュアブル錠内服時-同量の顆粒へ移行前後の、排便状態・下剤内服の有無などの副作用と血清データ、またそれぞれのアドヒアランスについて検討した。尚、顆粒の服用法は「食中」を推奨した。

【結果】

炭酸ランタンチュアブル錠内服中の平均噛み砕き数は11回であり、「そのまま飲む」患者も3名みられた。細粒への切り替えに同意した患者は110名中98名であり、チュアブル錠を好む理由は、全例「食事と一緒に咀嚼できるから」であった。細粒に変更した後、腹満・便秘は平均27.3%から平均9.1%と有意に減少し、血清リン値は $7.1 \pm 3.0 \text{mg/dL}$ から $6.6 \pm 3.7 \text{mg/dL}$ に減少する傾向にあったが有意差はなかった。一方、患者申告による内服率（「実際にはどのくらい飲んでいましたか？」の設問）は、チュアブル錠88%・細粒100%と有意に細粒で高かった。

【考察】

ホスレノール細粒は食中の服用を推奨した場合、チュアブル錠に比べ、アドヒアランスが高く、結果的に血清リン低下に繋がっている可能性がある。腹満・便秘改善作用については不明で、現在詳細な検討を進めている。